

第24号
平成30年
3月



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



Contents

1. 校長より.....2
2. 卒業生へ送る言葉.....3
3. 卒業にあたって.....4~5
4. 学年の学生の様子.....6~7
5. 修了生へ送る言葉専攻科長、後援会会長挨拶、事務部長挨拶.....8
6. 修了にあたって.....9
7. 第13回高専祭.....10
8. 学生会、寮生会より.....11
9. 学生の活躍、キャリア教育センター、グローバル交流推進センター.....12~14
10. 地域連携事業、保健室より.....15
11. 就職・進学状況、平成30年度学生募集結果一覧.....16~17
12. インターンシップ体験記.....18~19
13. 平成30年度(前期)行事予定表.....20

独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL:0980-55-4003 FAX:0980-55-4012
HP▶<http://www.okinawa-ct.ac.jp>

沖縄工業高等専門学校
校長 安藤 安則



校長の安藤です。卒業式・修了式、誠におめでとうございます。保護者の皆さんをはじめ、後援会、沖縄高専産学連携協力会の皆様方には、平素沖縄高専の教育、研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝いたします。

さて、世界的な動向を考えますと、昨年来の米国のトランプ大統領の不規則発言に基づく世界的な混乱、ヨーロッパへの大量の難民移動とEU(英国やドイツ等)の政治的動揺、北朝鮮の度重なる核実験や弾道ミサイルの発射等による近隣諸国への脅威等は今年も引き続き大きな懸念事項となり、注意深く見守ってゆく必要があります。

観点を変えて我々の身近なワークスタイルについて考えますと、2018年は明治元年から150年目とも言われ、当時と現在では、国際環境や私たち個人を取り巻く環境は大きく異なって来ました。しかしながら、我々の今までの生活様式や仕事内容を大きく変革させる衝撃波が直ぐそこに近づいている事は、奇しくも150年前と質的には同じような感があります。1月4日の日経新聞では、「スマホよ、さようなら、AI(人工知能)イヤホンの本格化」という記事がありましたが、世に言う、「ネットとリアルの融合」が顕著になり、一部の大国や大企業だけが大きな力をふるうグローバル化から、小さな国や企業、個人がデジタル革命の翼に乗って世界へ繋がり、活躍できる状況になり、もう後に戻れないと思われれます。

沖縄高専は開学以来、人材育成と地域貢献を重要なミッションとして取り組んで参りました。このような大変革の下で、沖縄高専は、前途ある有能な学生を迎え入れ、沖縄高専の特長ある工学教育を実践し、企業や大学・大学院等へ卒業生を送り出してゆく事を大きな目標としております。特に厳しい競争社会の中で強く生き抜ける人材育成を教職員一丸となって推進する所存でありますので、保護者の方は勿論、沖縄高専産学連携協力会等の関係各位の皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

結びに、旧年にも増して関係各位に本校の教育・研究にご理解を頂き、更なるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げまして、私のご挨拶といたします。

機械システム工学科

5学年学科担任
津村 卓也



機械システム工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。5年前の4月3日、学科担任として入学式で10期生の名前を読み上げたことが、つい先日の出来事のように感じられます。早いものでそれから5年の月日が流れ、当時はまだあどけなさも垣間見られた皆さんは、本学科の教育課程を終えられて逞しく成長されました。

卒業を機に沖縄高専という港を立ち、人生という大海原に向かい漕ぎ出そうとしている今、皆さんはどんな気持ちで居られるでしょうか？自身の進路に対する希望に胸を膨らませワクワクしているのでしょうか？あるいは、まだ見知らぬ環境や見通せない将来にうまく対応していけるかどうか…とドキドキしているのでしょうか？人生という大海原では、穏やかな太陽の下で爽やかな風が流れる中を順風満帆に気持ちよく進むことができる場合もあるでしょう。あるいは濃霧の中で自身の立ち位置や行き先を見失いかけたり、また時には大荒れの天候で同じ場所を行きつ戻りつし、何日も何週間も足止めを食らったりして、不安に苛まれることもあるでしょう。しかしどんな状況にあっても、自身の目的地を見失わず、必ずたどり着くのだという強い意志を持ってすれば、案外うまく渡っていくことができます。

最後に、5年間を通じて担任を務めさせて頂き、皆さんの成長に立ち会うことができたこと、また体育祭、高専祭、研修旅行、インターンシップなどなどの楽しい思い出ができたこと、さらに5年前の1月に沖縄高専に赴任し、担任業務を通じて高専教員の初心者であった私自身が成長できたことに対し、大変深く感謝しております。どうもありがとうございました。今後も沖縄高専の卒業生であることを誇りに思いつつ、それぞれの人生を後悔しないよう、是非楽しんで自身の目的地に向かって“航海”してください。「ようそろ。」

情報通信システム工学科

5学年学科担任
金城 伊智子



10期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この5年間、情報10期生の学科担任をしてきて感じてきたことがあります。それは、「学生達は学科担任に似てしまうのか？」ということです。もちろん褒められることは、皆さんが頑張った成果であり、皆さん自身の努力の結果だと思うのですが、10期生の学生達が怒られる時の言葉は、私には“うちあたい”することが多くありました。

そう思うからこそ、また私の悪いところは似てほしくないという想いから、皆さんにはこれまでに色々話をしてきました。皆さんにどれだけ伝えることができたかわかりませんが、絶対に忘れてほしくないことを改めて伝えておきたいと思います。「常に周りの人への感謝の気持ちを忘れないでください。そして、できればその感謝の気持ちを伝えるようにしてください。」きっとそのことを忘れなければ、人を助けようという気持ちも生まれ、それが行動に反映され、それに伴って皆さんが困った時に周りの人達からも助けてもらえるようになると思っています。

これから困難なことはあると思いますが、担任がかまってくれない分、まず皆さん自身で何とか解決しようと努力してきた皆さんには、これまで頑張ってきたことが力となっていると感じています。したがって、この力を発揮してこれからも乗り越えていけると信じています。

そして、これまでは連絡事項を忘れてしまう皆さんに対して言っていたかもしれない「私、言ったじゃん」を、将来皆さんが遊びに来てくれた時に「あの時のあの言葉を思い出して、心が折れそうになった時に頑張りました。」と言ってきて、今度は良い意味で「ね！私、言ったじゃん」と言えるようになりたいと今から妄想しています。その私の希望を叶えるために皆さんの顔を見せに来てくれることを楽しみにしています。

メディア情報工学科

5学年学科担任
バイティガ ザカリ



5年メディア情報工学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私が皆さんと初めて顔を合わせたのは、視聴覚ホールでパソコンの設定会を行ったときでした。そして1年生の時には、私が教えていた「情報技術の基礎」というパソコンに関する科目をはじめ、3年生のときは学科副担任として皆さんと一緒に研修旅行に行きました。そして4年生のときには学科副担任として皆さんのインターンシップ（企業研修）を担当しました。そして5年生では担任として皆さんの就職活動や大学編入活動などについてアドバイスし、応援してきましたが、私が教員として一方的に何を皆さんに教えるのではなく、皆さんから私に日本の諺や文化など沢山のことを学びました。体育祭では皆さんから声をかけてもらって一緒に400mリレーを走ったときの楽しさは今でも忘れません。皆さんは私が沖縄高専に赴任して、私がこれまでに一番関わってきた学年だと思っています。このような様々なエピソードはまるで昨日のこのように感じますが、皆さんの成長を確かに感じるこの5年間でした。

これから皆さんは沖縄高専を卒業してそれぞれの進路に向かっていきます。ここで得た素晴らしい友達や先生方、職員と離れ離れになってしまう卒業は、悲しく心細い気持ちもあると思いますが、同時に新たな旅立ち、出発でもあります。日々の暮らしの中で、別れもあれば新たな出会いもあるのが人生であり、別れがあるからこそ次のステップがあるのです。これから前向きな気持ちで歩んで行ってください。

これからそれぞれの就職先や進学先で、また新しい出会いがあるでしょう。そして新たな経験をする中で困難にも直面する時が来るかもしれません。でも大丈夫。皆さんは困難にぶち当たった時の解決策を持っています。すでに皆さんがこの高専で培った知識や技術、そしてかけがえのない友達や人生の先輩である私たち教員です。どうぞ困ったときはいつでも頼ってください。そして怖がらずに勇気を出して新しいことにチャレンジしてください。皆さんが卒業しても私たちは貴方たちを応援しています。

最後になりますが、就職・進学し新しい一歩を踏み出そうとしている皆さん、まず自分の身体と心を大切にしてください。そして自分の目標を立て、それを実現するために一歩、一歩前進してください。出張や帰省などの際は是非、皆さんの元気な顔を見せてください。また皆さんに会う日を楽しみにしています。

生物資源工学科

5学年学科担任
三宮 一幸



皆さん、卒業おめでとう！私は、皆さんに、初担任をさせていただいたことになります。5年前、お互い新人でスタートしたのですね。私はと言えば、とても力不足で、申し訳ありませんでした。一方の皆さんは、見違える成長を見せてくれました。皆さんの成長を間近で見ることができ、とても勉強になりました。皆さんの成長が特に顕著だったのは、研修旅行とインターンシップですね。とても失礼なことに、当初、私は心配していました。が、皆さんは、何も問題なく、どころか見事に、この2つをクリアしました。学生気分、という言葉は、普通、悪い意味で使われます。しかし、高専の外ですますすビシッ！とする皆さんを見て、とても頼もしく感じました。というのも、私は皆さんの年頃、世の中をなめきったバカ野郎だったからです。

そんな皆さんでも、今後の心配はあることでしょう。でも、心配しない、としたら、そっちの方が心配です。つまり、将来を心配しない若者がいたら、私は、その若者を残念に思います。若者の心配は、当たり前です。そして、心配は必要なもの、と私は思います。もし、若者が、常に根拠なく安心しきっていて常に実力を上まわる自信で、その上、人生が全とうまくいった、としたらどうでしょう？それは味気ない人生、かもしれません。というか、そもそも、世の中はたいがい思い通りにはいきません。私自身のことをふり返ってみます。27歳、ホントは心配なくせにそれは気のせい、と言いつけるバカ野郎を、やっと卒業しました。思い通りにはいかないなあ、と心配100%でもがきました。何も変わりませんでした。でもあきらめないでいると、数年後、1mm結果が「出ました」。その1mmのおかげで、私は、コレデイノダ、と思うことができるようになりました。・・・とは言いしましたが、今思い返すと、結果より道のりの方がずっと楽しいです。ミリQで洪水にした、超遠心のローターが外れて飛び回った、ケルダールの硫酸が上から降ってきた、1週間かけて精製したタンパク質を捨てた、大御所の資料を破いた、などなど、私もS君もI君も若い時やらかしていますが、今は立場上、若者にばれないようにしています。まとめると、1mmの前進は次のネタにつながる、です。

皆さんへの祝福は、卒業の他に、未来、についても贈りたいと思います。皆さんはピンとこないかもしれませんが、皆さんが未来に向かって自分ごと自体、それだけでとても輝かしいことです。若者は全員、挑戦者なのですから。そして皆さんは、高専でがんばったように、またいつか、壁を乗り越えます。だから皆さんの未来を祝福したいのです。これから皆さんが、心配したり、もがいたり、壁を乗り越えたり、すること全て、皆さんの未来全てが、私には喜びです。5年間、ありがとう。皆さんの冒険は、いよいよ始まります。ヨーソロー。

機械システム工学科

5学年
上原 幸平



慣れないスーツを着て入学式に出席したのが 5 年前だとは信じられないほど、高専生活はあっという間に過ぎて行きました。あっという間でしたがその時間はとてつもなく中身の濃いものであり、私にとって間違いなく大切な思い出になると思います。5 年前の私は「機械いじりができて就職率もいいのかー」と、ざっくりとした理由で高専に入学しました。そのせいもあってか、学業面でつまづく事も多々ありました。

それでもここまで来れたのは、一緒に学んできた友人がいたからだだと思います。苦しい時間も楽しい時間も一緒に過ごしてきた高専の仲間だからこそ分かり合えるものがあると思います。

また、尊敬できる先輩と出会うことが出来ました。先輩方から学んだことは多く、先輩方と同じ学年になって改めて「凄い人達だったなあ」と実感しています。こんな体験ができるのも一年生から五年生までいる高専ならではの思い出だと思います。

私は四月から大阪の企業に就職しますが、将来的には沖縄に貢献出来るエンジニアになって帰ってきたいと思っています。

最後に、高専生活 5 年間で関わった友人、お世話になった先生方、そして何より、これまで育ててくれた両親に感謝の気持ちを伝えたいです。

機械システム工学科

5学年
甲斐 郁



沖縄高専に入学した当時は卒業なんてまだまだ先の話だと思っていました。ですが、卒業が間近になった今振り返ってみると、体育祭や高専祭、研修旅行にインターンシップなど思い出の数をあげるとキリがないほど充実した 5 年間でした。

卒業するにあたって後輩たちに伝えたいことが 1 つあります。それは、積極的にイベントや行事に参加してほしいということです。というのも、自分自身級長や、体育祭実行委員、高専祭実行委員と数多くの行事に関わってきました。その中で、普段は関わらない他学科の先輩方や後輩と仲良くなることが出来ました。高専祭やイベントの運営に関わるということは交友関係を広げることに繋がります。そして、なんといっても 1 つの行事を作っていく楽しさと終わったあとの充実感は、実行委員をしていないと味わえないものだと思います。

これまで、本当に多くの楽しいことや辛いことがありました。それら乗り越えられたのは、両親、先生方、機械科の仲間のおかげだと思っています。卒業してもみんなそれぞれの場所で活躍していると思うので、5 年後、10 年後の同窓会などで会うのが今のうちから楽しみです。

最後になりますが、この 5 年間お世話になった教職員の方々本当にありがとうございました。

情報通信システム工学科

5学年
石原 杏奈



入学当時は、不安ばかりで長いと思っていた高専 5 年間でしたが、始まるとすぐにその不安は消え、気が付けば後輩ができ、卒業の年になっていました。あっという間だったのは、いい仲間恵まれ、毎日が充実していたからだと感じます。

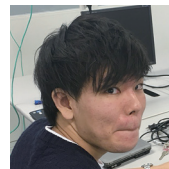
高専では、寮生活や部活動、学生会活動に創造研究など、多くのことにチャレンジすることができました。入学して初めてのチャレンジは寮生活でした。はじめは他人とずっと同じところで過ごすことにすごく不安もありましたが、同級生が明るく話しかけてくれたおかげですぐ打ち解けることができ、その不安もすぐなくなりました。友達と毎日一緒に生活できることは、とても新鮮で貴重な体験でした。

学校生活では、授業についていけず苦しんだこともありましたが、部活動内で自分の価値が見いだせず悩んだこともありましたが、友達と夜まで勉強をしたり、休日にも集まって練習をしたりすることで自然と乗り越えることができました。それも今となっては、楽しかった大切な思い出であり、それほど周りの人たちや環境に恵まれていたのだなと改めて感じます。

定期試験や課題を共に乗り越えてきたクラスメイトや、研究で行き詰ったときに指導してくれた先輩や先生方、行事を一緒につくりあげてきた後輩たちと離れてしまうことに寂しさはあるのですが、卒業後も高専で学んできたことを胸に、社会人としてさらに成長していけるようこれからも頑張りたいと思います。

情報通信システム工学科

5学年
前蔵 遼



高専での 5 年間は早いものでいよいよ卒業が近づいてきました。学校生活を振り返ってみると、1 年生の時は入学式に始まり、周りあまり馴染めないまま開催される体育祭など最初の 1 ヶ月くらいは不安がどんどん大きくなっていきました。それと同時に慣れない寮生活も始まり精神的にも大変だったと今では思います。しかし、徐々に友達もでき、学校生活もどんどん楽しくなっていきました。寮で友達と一緒にレポートや定期試験の勉強を徹夜して乗り切ったこと、夜遅くまで大勢でゲームをして指導寮生の先輩や寮事務の方に注意されたのも良い思い出です笑

課外活動にも積極的に参加し、インターンシップやセミコンジャンプでの研究発表など様々な経験を得ることができました。また、そこで他高専の友達や企業の方など学外の人達とも繋がることができました。高専というのは良くも悪くも閉鎖的な環境なので後輩にもどんどん外へ出て行ってほしいなと思います。

学年が上がるにつれて自分のやりたいこと、将来の夢が固まっていきました。そのせいで勝手に授業中に他の勉強をすること（いわゆる内職）が多々あり、先生達には「こいつ、授業聞いてないな」と思うこともあったと思います（反省しています）。最終的には私の意志を尊重し、また、目標へのプロセスを議論してくれたり本当に良い先生方に恵まれました。

春からは沖縄を出て大学に進学します。専攻分野は少し変わりますが高専で培った忍耐力で目標に向かって日々邁進していきます。

最後になりますが、5 年間過ごしてきたクラスメイトの皆さん、教職員の皆様、本当にお世話になりました。

メディア情報工学科

5学年
崎山 媛可

沖縄高専に入学し、あっという間に5年が経ちました。振り返ると、20年生きてきた中で1番早い5年間だったなと思います。5年前の入学当初は、こんな田舎で何もないところで親元を離れ、果たして生活していけるのか、頭の良い人たちばかりで無事に卒業できるのかと心配や不安が多くありました。しかし、学科担任の先生方や学生寮事務の方、学生寮の先輩等、私の不安をかき消すかのようにとても生き生きと生活している姿を見て、学生寮生活が始まり、1週間で不安なんてあっという間に解消されたことを今でも昨日のように思い出されます。

5年間沖縄高専で学んできたからこそ断言できることですが、沖縄高専に入学したことは正しい選択だったなと思います。高専に来て一番の収穫は高校生活では味わえないような様々な経験ができたこと、自分の将来に大きな影響を与えてくれた周りの方々との出会いです。私は学生会活動や指導寮生、体育祭実行委員会や高専祭実行委員会など高専の5年間で他の人よりも多く様々なイベントの運営側に携わることができました。“多くの学生の上に立つ”ことを経験できたことは社会に出たときの大きな糧になると思います。また、専門的な内容の授業もわかりやすく、根気強く教えてくださった先生方、学生寮生活や高専生活での過ごし方を楽しく、おもしろく教えてくれた先輩方、定期試験や学校行事など多くのイベントを共に支えあい、乗り越えてきた友達。5年の間にこれからの人生一生付き合っていきたいと思える人たちに出会えたことに本当に感謝しています。

4月からはいよいよ、自分の将来に向けて自分の足で歩み始めます。大学に行き新しい環境で勉強励む学生、専攻科に進みより一層自分の研究に磨きをかける学生、就職し自立して歩んでいく学生。みんな違う道に進んでいきますが、きっと全員が「何かの役に立てるように」、そんなことを考えながら進んでいくと思います。5年間で学んだことを活かして社会に貢献できるように、そしてお世話になった家族、先生方に恩返しができるようにこれからも日々精進し、立派な社会人になります。

最後になりますが、この沖縄高専で出会い、関わってきた全ての方々、何より、今まで20年間支え、育ててくれた両親に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

メディア情報工学科

5学年
仲程 優貴

入学当初の私は、5年生になっている自分が想像できないほど、とても遠くて長い道のりだと思っていましたが、いつの間にか5年が経過し、もうすぐ卒業という事実には驚いています。今思えば高専での5年間はあっという間でしたが、とても濃い学生生活だったと思います。

5年間の高専での日々を振り返ると、まず初めにICT委員会での活動のことが思い浮かびます。ICT委員会に入部したての頃、先輩方に名づけてもらったチーム名「ホワイトハッカーズ」としてメンバー4人での、アプリケーション開発や、県外の大会への出場など、どの経験も良い思い出ばかりです。今思えば、ICT委員会に入部し、ホワイトハッカーズというチーム名を名づけてもらった瞬間が、私の高専生活のターニングポイントだったと思います。

他にも、辛いようで楽しかった学生寮生活、友達との思い出を作れた研修旅行、助け合って乗り越えた定期試験、刺激的な体験の繰り返しで成長できたインターンシップ、苦しくて周りにたくさん迷惑を掛けた編入試験などなど、楽しかったこと、大変だったことなど色々ありましたが、どれも懐かしく良い思い出です。

私は、来年から県外の大学へ編入します。入学当初は就職のことしか頭に無かったのですが、高専生活を通してたくさんの経験をしているうちに、いつしか進学という進路に変わっていました。後輩の皆さんも就職なのか進学なのか迷う時期が来ると思いますが、自分がこれだと思った道に進めば後悔することはないはずです。

県外の大学へ編入することで、今の環境からとても変わることが不安なばかりですが、高専での経験を信じて、大学でもたくさんのことを経験し吸収していきたいと思っています。

最後に、この5年間お世話になった、友達、教職員の皆様、本当にありがとうございました。

生物資源工学科

5学年
秋山 遼

5年前の春に、私は沖縄高専に入学しました。県外生だった僕は新しい「沖縄」という土地に胸を躍らせていたのを覚えています。さらに戻って6年前の夏頃、志望校をwebやパンフレットでみていたときに父さんがこの沖縄高専を勧めてくれました。高専ではあまりない生物系の学科とビカビカの校舎、南国での学生生活というのに惹かれ入学しました。

入学して私が所属したのがサッカー部でした。入学前は南国らしい部活に所属してやろうと意気込んでいたのですが、静岡県出身ということもあり、勧誘を断れずに入部したのを覚えています。しかし、そこで築いた人間関係や苦労したことが、私の高専生活をすごく楽しいものにしてくれたし、支えとなってくれました。

そんなこんなで学校生活にもなれてきた1年後期から2年、3年生あたり、皆の中でこのままでいいのかという雰囲気があったのを覚えています。高専と普通高校との違いに考えさせられるのです。今思えば少数派に所属していると不安になる人の心理であったと思いますが、そんな時期が少なからず私にもありました。少し恥ずかしいですが、当時は自分が普通高に行ったらとても辛い自転車通学だったと言い聞かせていました。同時に高専には普通高校にはないチャンスや出来事が沢山あるということもわかっていました。そのようなチャンスに積極的に手を出していけばよかったと少し後悔している部分もあります。

4、5年生になると将来のことを考えるようになり、高専と普通高校との違いなどを考えることもなくなりました。私は大学に進学する事になっていますが、ここでも勉強をもう少し頑張ればよかったと後悔したりしています。

このように高専5年間もあっという間に過ぎて卒業目前です。入学前に思い描いた南国生活ではなかったし、もっとあさすれば、こうすればなど心残りはありますが、沖縄高専でよかったと思っています。思い返せば思い返すほどいろいろなものに恵まれていたことを感じる5年間でした。お世話になった皆さんありがとうございました。

生物資源工学科

5学年
平安名 真実

入学したてのときは、長く感じていた5年間は今ではあっという間に気づいたら5年生になっていました。1年生のときの私は、初めての寮生活と難しい勉強、そして中学のときの友達が近くにいないという環境で不安がいっぱいでした。でも、寮生活でみんなと朝から晩まで一緒に過ごしているうちに気づいたら友達がたくさんできていました。友達とは5年間一緒に過ごしてきたので、卒業したら離れ離れになってしまうことが今でも実感がありません。

5年間を振り返るとオープンキャンパスや研修旅行、高専祭に卒業研究、その他にも多くのことを経験した5年間でとても充実した日々でした。その中でも思い出に残っているのは、寮で女子整美委員長をしていたことです。人前に立つことが苦手だった私でしたが、女子寮生の前に立ち指示をする立場になりました。初めは慣れないことでさらに苦手意識もあつてうまくいかない時期もありました。そんなとき、同学年の友達の励ましや協力があつたお陰で1年間頑張ることができました。この経験をしたおかげで入学当初より少しだけ積極的になることができたので、今ではとてもいい経験をする事ができたと思っています。

私は卒業後から県外就職で初めて沖縄を離れて一人暮らしをします。家族やお世話になった先生、友達、この5年間に会った人々への感謝を忘れずに、新しい環境でも努力していきたいです。これまで本当にありがとうございました。

第1学年学級担任より

1年1組学級担任
小池 寿俊



2005年は「新」(3人)、2016年は「新」と「赤」(それぞれ4人)、2017年は「楽」(5人)。これらが何かお分かりになる方がおられるでしょうか？

私は昨年度に引き続き今年度も、1年1組の学級担任を務めております。1期生の2004年度と2期生の2005年度でも1年1組を担当いたしました。最初に担任した1期生にはやりませんでしたが、それ以降は12月のホームルームの時間に、学生に簡単に一年を振り返ってもらい、新年の目標を記してもらっています。そして年末の風物詩に倣い、各自の「今年の漢字一文字」も書いてもらいます。冒頭の漢字と人数は、それぞれの1年1組(40人強)で最も多かった漢字一文字とその人数です。

2005年と2016年の「新」の意味は、皆さんお分かりだと思います。高専に入学して何もかも新しいことばかりだったことでしょう。(2年生以上にたずねると、きっと「新」は一位にはならないでしょう。)今年2017年の「楽」は「楽しかった」からがほとんどですが、「楽だった」や「楽をしすぎた」の意味を込めた学生もいました。ちなみに、2017年も「新」を選んだ学生は「楽」に次いで多く3人いました。その次に多かったのは「挑」「辛」「苦」(各2名)でした。(これら以外は1人しか選ばなかった漢字です。)

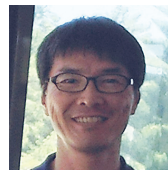
これらは1年1組の結果ではありますが、1年全体でも傾向は同様でしょう。1年生は「新」らしい環境で、様々なことに「挑」み、「楽」しい、しかし時には(学生によっては)「辛」く「苦」しい1年間を過ごしました。1年生の終わりに、保護者の方からもお子様の1年間をねぎらい、いたわっていただければと思います。

さて、2016年には「新」と並んで最も多かった漢字に「赤」があります。保護者の方はこの意味がお分かりでしょうか？ 分からなかった方は是非、お子様に尋ねになってください。高専生なら分かるはずですが、高校生のお子様に訊かれても分からないかも知れません。(高校1年生に同様なアンケートを取っても、この「赤」は上位に来ることはないのではないかと考えています。)これは高専生が最も恐れる(?)「赤」点の「赤」なのです。赤点の有無のみを問題にする必要はありませんが、もちろん成績についても春休みに親子で話し合っていたきたい点です。また我々にも反省すべき点がありますが、高専生の気になる点として、赤点を恐れる反面、赤点を回避すれば、つまり単位が取ればそれでよい、という姿勢の学生が多いことです。何のために高専に入学してきたのかを思い出せば、単位が取ればよいということにはならないはずです。この機会に、是非学生(1年生に限らず)にはこの点を見つめ直してもらいたいと思います。

最後に、この原稿を読まれている皆様の2017(年度)の漢字一文字は何だったのでしょうか？ この問いに対しては、真面目に素直に答えてくれる学生がほとんどです。お子様にもお聞きになってみてはいかがでしょうか？ そしてこの一年間を親子で振り返っていただければと思います。

第2学年主任より

第2学年主任
山本 寛



こんにちは。平成29年度2年主任の山本です。高専祭、後学期中間試験、年末年始が無事終わり、平成29年度も残りわずかとなりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。おちこんだりもしたけれど、私はげんきです。

平成29年度高専祭には、沢山の皆様にご来場頂きました。学生達の励みになったと思います。どうも有り難うございました。2年生のクラスの出し物は、

2年1組：お化け屋敷

2年2組：イライラ棒

2年3組：キャラクターハンティング

2年4組：屋台(おいしいフランクフルトなどの販売)

でした。おかげさまで何れのクラスも大盛況でした。高専祭では、例年、学生や教員の有志がピロティーで演奏をしております。動画共有サイトYoutubeにて「沖縄高専」をキーワードに検索すると、高専祭の模様を撮影した動画がいくつかヒットします。どうぞご覧下さい。

2年生の某クラスでは、平成30年1月のLHR(ロングホームルーム)で新年会(学芸会)が開かれ、芸達者で愉快的なクラスの仲間達による弾き語りなどの演奏が行われました。



新年会(学芸会)の様子

(このような催しをクラスのLHRで行うのは、沖縄高専初?)

さて、ここまでは楽しいことの報告ばかりをしてきましたが、残念ながらいいことばかりではありません。2年生は1月に入って特にお正月の疲れがどっと出ている様子で、授業中に居眠りをしてしまう学生が増えています。成績的にも心配な学生が多くいます。あと1ヶ月とすこし、一所懸命勉強をして、全員進級して頂きたいと思っています(この文章は平成30年1月に書かれています)。

おや、そろそろ退勤してドーナツを食べに行く時刻になりました。申し訳ありませんがこの辺で失礼致します。さようなら。

第3学年主任より

第3学年主任
玉城 康智

12期生の皆さん、高専生活3年間が経過しましたが実感はありますか？もう3年、まだ3年、様々な思いがあると思います。3年生は高専生活にも慣れ「中だるみ」の時期と言われています。皆さんは1年間、目標を持ち努力を継続することはできましたか？

この1年を振り返ると、4月は混合学級から学科毎のクラスとなり雰囲気が変わりました。同じ分野に興味を持つ学生がクラスに集い、切磋琢磨できる環境が整いました。また、3年生になると体育祭や高専祭、各種委員会で下級生を指導するリーダー的な役割が増えてきます。個性の強い高専生をまとめる事は容易ではないけれど、目標を明確に示し、メンバーの意見を取り入れ、最終的な決定を下す責任があります。時にメンバーと口論になることもあったかもしれません。しかし、これは社会人にも求められるコミュニケーションスキルであり、この経験は必ず役に立つでしょう。

生活面では学生寮を出て一人暮らしを始める学生も増えてきました。本校学生は最低1年間の寮生活を体験しますが、一人暮らしは誰からも管理されないため自己管理が難しく、特に食事と睡眠時間に注意が必要です。さらに、寮外生になるとアルバイトを始める学生が増えてきます。アルバイトの理由は、経済的な問題や社会勉強など様々だと思いますが、「1番は勉強」という優先順位を間違わなければ学生にとって良い経験となるでしょう。

12月の研修旅行は、学生が自主的に行動しグループ決定や3日目に予定されていた自由研修の計画まで行いました。研修旅行期間中の4日間、天候にも恵まれ、一人の脱落者もなく全員が無事日程を終えることができました。研修旅行では、学生の自主性を期待していましたが、予想以上の節度ある学生の行動に感心しました。

さて、皆さんは来年度から4年生になります。これまで通りクラスの和も大切ですが、これからは個人の力が試されます。それぞれが将来の目標に向かって具体的に行動しなければなりません。その最初の行動が夏季休暇中に行われるインターンシップです。人生設計の中で仕事は大きな要素となります。

就職活動では、学生はできるだけ自分の希望する職種や企業に就職したいと考えますが、全員が希望通りにはなりません。希望に近づくためには、他より早い行動が必要です。業界研究で具体的に業界や職種を選び、企業を絞り込み、希望する企業情報入手し、採用試験の準備（試験・面接対策など）を整える。何人かの学生は、「自分は進学だから関係ない」と思うかもしれません。しかし、必ず就活の時期が来ます。進学希望でも今から行動しても決して早すぎることはありません。

来年度も皆さんの自主的な行動に期待しています。

第4学年学科担任より

メディア情報工学科
第4学年学科担任
鈴木 大作

季節の移り変わりは早いもので、本年度も終盤にさしかかり、学内においても締めくくりの季節となりました。来年度、いよいよ本科生として最後の学年を迎える4年生にとっても、新しい進路について真剣に考えて行動する大切な時期となりました。

4年生は、この一年間様々な行事を通して、自らの進路を考えるきっかけや、実社会とのかかわりを持つうえで必要な素養・能力・価値観などについて少しずつ身に着ける取り組みを行ってまいりました。具体的には、4年時の特色ある科目のうちの一つであるインターンシップが行われ、8月から9月の夏休みの期間にかけて、様々な業種の企業や大学等での実習を体験しました。本校のインターンシップは必修科目となっており、原則全学生が実習を体験することになっています。実習前には、ビジネスマナー講習会やメイクアップセミナーなどの体験型の講習会への参加や、それぞれの専門学科に関連する業界や職種など自らが就く職業としての研究を行うなど、様々な活動を行いました。実際の実習先は、専門学科ごとに様々ですが、これからの進路を考えるうえで様々な刺激を受けたようで、夏休み明けに実施したインターンシップ報告会では、それぞれの実習先で体験したことや学んだこと、楽しかったことや苦勞したことなどについてお互いに報告し合い、実習を通しより自分の就きたい職業として思いが強まった学生や、異なる職業へ興味を持つきっかけとなった学生もいるなど、大変意義深い体験になったようです。是非、この体験を通じて得たことを、次の新しいステップに向けて活かしてほしいと思います。

12月頃から、学内では様々な企業の方にお越し頂き、業界研究会を催していただいております。内地からお越し頂いている企業様も多く、地理的に遠くに位置する沖縄の学生にとっては、実際に現場の企業の方と接してお話を伺える貴重な機会となっております。学生たちも、この機会を有効に活用し、自らの進路を考え具体的な行動へと結びつける出会いと活力の場として欲しいと願います。

これから進路開拓のための活動において経済面や空港までの送り迎えなど保護者の皆様にも様々な支援をお願いする機会が増えるかと思われます。4年担任団としましても、これから学生たちが自らの力を発揮できるよう支えて参りたいと思います。保護者の皆様におかれましてもより一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



● 修了生に贈る言葉

専攻科

専攻科長
眞喜志 治



今、時代はAIの本格的な活用に向けて急速に進んでいるように思えます。雑誌やWeb上で「10年後にはなくなる仕事」などの記事をよく見かけるようになったのは、その現れかもしれません。そのような時代に、修了生の皆さんは社会人としての一步を踏み出すわけですが(凝りもせず学生を続ける人もいますが、いずれ世に出ることを考えれば同じことでしょう)、皆さんが沖縄高专で身につけた知識や技術は、AIにとって代わられる程度のものでしょうか? AIの進化は、良くも悪くも、誰にとっても他人事ではないでしょうが、そのことに不安や焦りを抱くくらいなら、「どこまでも自ら学べ」とエールを送りたいと思いますし、誰に言われるものでもないことだと思います。

本来、本校の学生は、卒業時あるいは修了時には自ら学ぶ姿勢を身につけていなければならないと考えます。なぜなら、本校には、時間割にも明記されているように「自学自習時間」が設けられているからです。文字通り、理解不足を補い、学んだことを深く理解するなど、自ら

の発展のために自主的に学ぶための貴重な時間として存在しているはずですが、純粋に自学自習のために有効活用した人はどれだけいるのでしょうか? 「自学自習時間＝遊びのための自由時間」と勝手に解釈している学生がほとんどであるように見受けられます。締め切り間際に慌てる学生の多いことが、僕の見立てを裏付けていると思います。

一方で、自学自習を促すことは教員の役目だと考えますが、果たして、それがなされていたのか、については疑問に思うところもあります。機会だけ作って、きっかけを与えず、「学生は自主的に勉強しない」と嘆くことは正しいことではない、と考えるのは僕だけかもしれませんが、とはいえ、「学ぶ」という行為は自発的なものであることが望ましいのではないのでしょうか。自ら学ぶ習慣を身につけるということは、結構な能力を手に入れることになると考えています。例えるなら、「見聞色の覇気を極めると未来が見える」、に相当するぐらいすごいことだと、個人的には妄想しています。

人生においては、学び続けることが重要で、結果として、学ぶことの必要性を身に染みて感じるようになると思います。学校だけが学ぶ場ではなく、授業時間だけが学習時間ではないことを強く認識して、常に自己研鑽に励み、どこまでも自身を高めてくれることを期待しています。

● 後援会会長・事務部長挨拶

沖縄工業高等専門学校後援会

会長
森脇 雅佳



今春、晴れて沖縄高专を卒業ならびに修了される学生の皆様、彼らを支えてこられた保護者・学校関係者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

私事です。息子が専攻科を修了しますので、私も晴れて後援会を卒業致します。理事を仰せつかって6年間、お役を務めさせて頂きました。実はそれまで小中学校のPTA活動には一切関わってこなかったので、役員として学校の活動に関わるのは沖縄高专が初めてでした。そもそも理事とは何をするのかも分かっておりませんでしたので、他支部の諸先輩方から色々とお話を伺ったり、イベントと一緒にやろうと誘って頂いたりして、一つ一つ学ばせて頂きました。また、先生方とお会いする機会が格段に増えましたので、子どものことで相談に乗って頂いたり、学校の取り組みについて具体的に教わったりしました。他にも後援会を通じて本当に多くの方々に出会い、支えられてこれまで活動して頂くことができました。関わって下さった皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、本年度も後援会は課外活動や教育・研究事業、進路指導を支援して参りました。学生達もそれに応えて数多くの実績を残してくれました。これもひとえに会員の皆様のご理解とご協力があったからこそ、厚く御礼申し上げます。

今後とも引き続き、沖縄高专の学生達の活動に興味関心を持って頂き、後援会事業にご理解、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

事務部

事務部長
富田 和宏



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

沖縄高专は、開校以来14年が経ちました。今回の卒業生は第10期生になります。

沖縄高专には、全国に51ある国立高等専門学校の中で、ほかに例を見ない奇抜とも思える設計が随所にあります。大きな開口部の上に図書館、国道を跨ぐ歩道橋、オーシャンビューの食堂、フロア毎の色調…etc. これらは、設計、施工に携わった県内の多くの方の尽力により、県産品を駆使した美しさとともに機能性豊かな建物です。いつの間にか見慣れたキャンパスになりましたが、お別れとともに思い出として皆さんの記憶に刻まれることでしょう。

そのようなキャンパスですが、敷きつめた琉球石灰岩に「黒い丸」が目立ち始めました。一日がかりで約300カ所を取り除きました。これは、吐き捨てられたガムです。特に構内および建物の出入り口付近に多く、美観を損ね県産品の誇りを失うばかりでなく設立に携わった多くの方の想いを損なうように思います。

ガムの原材料の生産、製造、販売、購入、消費、各物流がなされ、適正な廃棄物処理がなされなかった訳です。不用意な行動が、踏んでしまった方の不愉快を生じさせ、さらに清掃の必要という連鎖になります。大げさかも知れませんが、伸び伸びとした学習環境の阻害行為になりかねません。沖縄高专に集う諸君には、「吐き捨てる人」、「はがす人」、そして「見て見ぬふりをする人」のいずれにもなって欲しくありません。

マナーは、学校教育なののでしょうか? 学校側の「ガム禁止」といった合理的に規則で制限するのではなく、家庭教育や社会教育の充実によって改善されることを願っています。

苦学に耐えた卒業生は、卒業を期に自由人になります。これからは、学校の諸規則に何も縛られることはありません。自由とは、法令のみならず社会的規範をも含めた義務を全うした者のみが得られる最高の権利であると考えます。

在校生の諸君もいつの日か社会に旅立つでしょう。すばらしいキャンパスで学んだことを誇りに、責任と葛藤し立派な自由人を目指して欲しいと願っています。そのためには、保護者を始め関係諸兄のご協力をよろしくお願いいたします。

機械システム工学 コース

平田 礼奈



沖縄高専に入学して7年が経とうとしています。7年という現在22歳である私としては人生の3分の1を沖縄高専そして寮で過ごしたということもあり、年月について思いを馳せしてしまうところがあります。7年間というのは振り返るとあっという間な気がしますが、過ごしてきた日々を思い浮かべると過不足ない7年でした。しかし、専攻科の2年間というのはとても早く過ぎ去ったように感じられ、もう修了するのかと不思議な感じがしております。

高専に入学した当初は、5年後には就職しているのかもしれないなどと思っていましたが、日々の学校生活や寮生活、友人との遊びなどを送っているうちにいつのまにかもう少し勉強するのもいいかもしれないと思い専攻科へと進学しました。本科生のころは学科人数40名ほどで、個性豊かな同級生や先生方と過ごしてよかった思い出が溢れています。専攻科に入学すると同じコースの人数は8名となりましたが、変わらず楽しい日々でした。専攻科では他コースの方と同じ授業を受けることがあり、これまで関わったことのない方と交流をもちたり、他コースの専門科目であっても受講可能であったりと本科とは少し違うところや、専攻科の授業のほとんどが選択科目であるため、少人数、場合によっては1人ということもあり新鮮でした。

専攻科修了後の進路につきましては迷走したこともあり、周りの方々や先生方、家族などに心配をおかけしたと思いますが、進路が決定するまで辛抱強く付き合っていたいただき感謝しております。おかげさまで来年から進学することとなりました。あらためてこれまでの高専生活を振り返ると、本科生のころから様々な人と関わり合いながら多くの方々に支えられてここまで来ることができたと感じます。本当にありがとうございました。

情報工学 コース

森脇 拓人



沖縄高専に入学し、(7年ではなく)8年経とうとしています。男性平均寿命の10分の1をこの沖縄高専で過ごしたこと、人生の10分の1ってこんなに早く過ぎ去るのかと感じたこと、そしてこんな時間が経っても相変わらず課題と研究に追われている事に、とてもびっくりしています。

昨年度の高専だよりで、同コース卒業の増千絵さんは『本コースはたった2人しかいません。』と言っていました。私は更に下回って1人でした。人数が少ないとは聞いていたのですがこうなるとは思ってもなく、「たった1人で受ける授業大丈夫かな」「他学科とコミュニケーション上手く取れるかな」など進学前から様々な不安に駆られていたのを今でも覚えています。しかし、いざ専攻科生の生活が始まると、それらの不安は杞憂に終わりました。専門の授業は実質的にマンツーマンの講義でとても分かりやすく、他学科との合同授業も、問題無くコミュニケーションを取りながら進める事ができました。本科と比べると遥かに有意義な生活を送ることが出来たと思います。専攻科でメインとなる研究活動では、先行研究が見つからない、プログラム作成時にバグが直らない等、思った通りに進まず苦悩することもありましたが、諦めずに解決策を模索しながら、少しずつ結果を出すことが出来ました。

就職活動でも望んでいた業種の企業に内定が決まり、とうとう4月から社会人です。社会に貢献できるよう、高専で得た知見を基に、様々な事を学んで自身の実力を更に高めたいと思います。新生活が楽しみです。その一方で「もっと図書館で沢山本読んで、演習室のPCにインストールされていたあのソフトウェアを使い倒しておけば良かったなあ。」「本科でも専攻科でも、勉強や生活で無計画的だった行動も遅かった。もう少し勉強できたかなあ。」「と、後悔も沢山あります。

先生や両親、専攻科の学生や本科の後輩たち、様々な人々の支えのおかげで、今の自分が居ると実感しています。勉強面や生活面で上手くいかず、自身の無計画さと行動の遅さを目の当たりにし、周囲に迷惑を掛けることもありました。そんな中でも、周りの協力のおかげで、少しずつでも成長する事が出来たのかなと思います。

最後に、授業や研究など熱心にご指導くださった先生の皆様、8年間一緒に関わってくれた友人や後輩の皆様、何があっても常に励ましてくれた両親に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

電子通信システム工学 コース

尾風 仁



7年前、私は沖縄高専に入学しました。どこもかしこも新しい設備、校舎と寮の間に架けられたブリッジ、広大なグラウンドに4面のテニスコート(しかもオムニコートでナイター付き!)。何もかもが目を見張るものだらけ…だったような気がするのですが、今ではそれらが当たり前になりすぎて、あの頃の気持ちを思い出すことは難しいです。入学から7年間、仲間とともに毎日慌ただしく、ほんの少しずつ変化しながら、気がつけばここまでやってきました。研修旅行では高温・多湿・快晴のシンガポールでスーツ姿で1日中歩き回ったり、辺野古基地前の反基地運動の怒声が飛び交う中ヒヤヒヤしながら通学したりと稀有で貴重(?)な経験もたくさんしました。

専攻科に進学してからは、担当教員の方針もあり、多くの学会に参加しました。本科5年次に初めて学会に参加したときには小規模だったにも関わらず緊張したことを覚えています。のどかな田舎が会場の学会で移動に苦労したり、海外での研究発表に参加して日本の学会との違いに驚いたり。昨年11月に青森で開催された国際会議では、沖縄育ちにはつらい-3℃の雪の中を移動したり、こちらの英語がうまく伝わらずと苦労しました。ほかにも色々ありましたが、これらの経験を通じて少しはタフになったかなと感じています。

いまだに苦手なことはたくさんあります。自分に足りないモノ、学べべきこともたくさんあります。それでも、高専生活7年間で身につけた専門性とタフさを武器に、これからもしっかりと進んでいこうと思います。

最後に、支え続けてくれた両親、入学当初から今まで本当に親身になって指導してくださった先生方、基本的に自由にやらせてくれた担当教員、そして長いこと共に過ごしてくれた個性的な友人たちに深い感謝を申し上げます。本当にお世話になりました！

生物資源工学 コース

宮里 春奈



沖縄高専に入学してから早7年が経ち、修了を間近にして非常に感慨深い思いがこみ上げています。高専の推薦入試の際、面接のために用意した答えを暗記して返答することが精一杯で、とても緊張していたことを懐かしく思います。入学後は、海外の企業を訪問する機会を頂いた他、指導教員の懇切丁寧なご指導を賜り、研究論文が国際学術誌に掲載されるに至りました。このような業績が評価され、日本学生支援機構の優秀学生顕彰(優秀賞)を受賞できたことは、沖縄高専の入学前には夢にも思っていませんでした。ご指導を頂いた先生方、また友人達の支えのおかげで、総じて大変充実した高専生活を送ることができました。心より御礼申し上げます。

ところで、リンダ・グラットンが書いた「LIFE SHIFT」という書籍をご存知でしょうか。その中で、私たちの世代は、ほぼ確実に100歳以上生きるだろうと書かれています。もし本当にそうなった場合、将来的には、会社を60歳で退職するといった、これまでの働き方では、従来の健全な社会は実現できないように思います。昨今のニュースでは、高齢化や長寿化の負の側面ばかりに目を向けられがちですが、せっかく長生きができるのなら、社会の変化を恐れず、長寿化の恩恵を受けて幸せな人生を送りたいと、この本を読んで思うようになりました。

私の場合、大学院に進学するか、あるいは企業に就職するかといった将来の進路を選択する上でとても悩みましたが、沖縄の発展に寄与できる人材となることを目標としていましたので、沖縄で自分の力を発揮できるような環境を選ぶことにしました。沖縄県内の第一志望の企業から内定を頂き、来年から自分の専門とは異なる技術職として勤務する予定です。以前、「人間とは常に人間になりつつある」という言葉を教わった際、当時はあまり理解できなかったのですが、今になってようやく理解できた気がします。その言葉を胸に、向上心を持って今後も邁進していきたいと思っています。

沖縄高専の後輩の皆さんには、次の時代へとつながる新しいアイデアや柔軟な感性に満ち溢れていると思います。これから先、困難に直面することもあるかと思いますが、前向きに、充実した学生生活を送って下さい。皆さんの今後の活躍を祈念致します。

第13回 高専祭

高専祭実行委員長
機械システム工学科4学年
嵩原 安恭



今年度、高専祭実行委員長を務めさせていただきました、4年機械システム工学科の嵩原安恭です。今年度の高専祭は11月4日～5日の2日間の日程で開催され、縁日・屋台・劇・映像作品・お化け屋敷などのクラス企画やライブ・ダンス・ジャズバンドなどのイベントで盛り上がりを見せ、大成功いたしました！

今回で13回目となる高専祭では、おとぎ話をモチーフとした構内の装飾を始め、実行委員主催の「高専神社」、「コピーユニットコンテスト」、「カレー早食い」などのイベントで敷地内を最大限に活用し、来場者の方々に楽しんでいただけるように力を尽くしました。特に今回が初めての試みとして行った当日の飛び入り参加有りの「スマブラ（対戦型アクションゲーム）大会」では多くの来場者の方々にも参加してもらい、盛り上がりました。

また、高専祭のホームページやSNS アカウ

ントを開設し、高専祭のプログラムや屋台の売り上げ情報をリアルタイムで周知することで集客に役立てることができました。

私たち実行委員は「歴代 No.1 の高専祭」を目標にしてきましたが、その目指す目標・クオリティが高く、実現に至るまでとても大変でした。しかし、学生の皆さんや協賛いただいたスポンサーの方や、先生方のご協力により高専祭を無事に作り上げることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

そして最後に第13回高専祭開催にあたり、最後まで実行委員長である私を支え、共に高専祭を運営してくれた、補佐、副実行委員長、各局長、局員の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました！！

来年度は自慢の後輩達が今年度を超えるような『最高に楽しい高専祭』にしてくれますので、ぜひ周りの方を誘ってお越しください！



学生会より

平成29年度学生会会長 メディア情報工学科4学年 西銘 かな



平成29年度学生会会長を務めております、メディア情報工学科の西銘かなです。学生会は、総務局、庶務局、広報局、会計局の4つの局から成り、それぞれが「学生が学校生活を楽しむためにはどうしたらいいのか」を考えながら1年間活動しています。

総務局は楽しいイベントを企画・運営し、庶務局は構内清掃をはじめ、地域の清掃活動の指揮も執りました。広報局は、毎月の学生会の活動を報告する月報を作成・掲示し、会計局は各行事のお金をきちんと管理することで、陰からのサポートをしてきました。

どの活動も、とてもうまくいったものもあれば、多く

の改善点が残る結果となったものもあります。その中で、各々が目標を達成することの難しさ、集団を動かす大変さを学び、大きく成長することが出来ました。

また、学生会の活動だけでなく、それぞれが励んできた研究や、部活動、様々な活動が大きく実を結んだ1年にもなりました。

本校は、自由な校風のなかで、強い意志を持つ同志とともに、夢へと前進できる素晴らしい学校です。これからもその雰囲気を大切に、「出る杭は打たれる」そんな言葉を忘れられるくらい、全員で切磋琢磨していきます。

最後になりましたが、私たちが充実した学校生活を送れたのは、後援会の皆様、先生方をはじめとし、学生の皆様のご協力があったからこそです。

この場をお借りして、御礼申し上げます。

今年度で本科・専攻科を修了される皆様のご健勝とご発展を祈念して、結びの言葉とさせていただきます。

平成29年度女子寮長 生物資源工学科3学年 翁長 京香



こんにちは、平成29年度女子寮長を務めさせていただきました、生物資源工学科3学年の翁長京香です。平成29年度は、寮の会計制度など変更事項がいくつかあり、私自身初めての役職で戸惑うことが多くありましたが、寮務主事の濱田先生をはじめ学生寮委員会委員の先生方、各委員の委員長の方々、寮務係の方々、レストランの方々、そして寮生会に所属している一人一人の寮生の協力のおかげで特に大きな問題もなく寮生会の運営を行うことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今年度各委員会の活動といたしましては、整美委員主催である月一回の大掃除、企画広報委員による寮祭の開催、保安委員の方々には週に一回の防災機器のチェック、避難訓練の主催、保健衛生委員では毎週の寝具リースの管理などがありました。その他にも会計局の方々の寮生会費の管理など、本当にたくさんの方々の協力がありました。

そして、今年度は夏休みの期間を利用し、函館高専さんの方で豊田高専さんを合わせ、3校合同で各高専寮生会の仕組みを知ることのできる交流会にも行かせていただきました。そこでは、各高専の寮の運営方法を細かく知ることができ、現状の自分たちの寮の問題点も知ることができました。

今年度は寮生の意見を取り入れ、少し変化のある寮生会でしたが、それ以外にも要望をいただいているので、これからもより良い寮生活を送れるよう、寮生会一同これからも力を合わせ、頑張っていきます。これからも沖縄高専学生寮をよろしくお願いします。

平成29年度男子寮長 生物資源工学科3学年 大嶺 宏仁



こんにちは。

平成29年度男子寮長を務めております。生物資源工学科3学年の大嶺宏仁です。29年度の寮生会は寮生が寮生活をより楽しめるように各委員会がお互いに協力し、様々な活動を行いました。

指導寮生会では寮生への指導を行い風紀維持を務めました。

整美委員会では月に一度行われる大掃除や半期に一度の居室点検を指揮してもらいました。

保安委員会は前期と後期に夜間を想定した避難訓練を行い寮生の防災意識の向上を高めました。保健委員会では寮食アンケートを行い、レストランの店長を交えた意見交換会などを行いました。

企画広報委員会では寮祭での出し物や抽選会、掃除のときに流す音楽の選曲などを務めました。寮生会執行部では寮生総会の運営、企画、他高専との交流を行いました。

今年度も無事に寮を運営できたのは各寮生会委員長、各委員、寮務主事の濱田先生をはじめ学生寮委員会の先生方、寮務係の方々、寮生、レストランの方々、そして保護者の方々のご協力を頂いたからだと思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

来年度以降も学生寮をよりよくしていけるように、寮生会一同協力していきます。

今後とも学生寮をよろしくお願いします。

寮生会より

学生の活躍

国際交流委員会

活動報告書

World Students Bridge ～国際交流委員会～

国際交流委員会・会長の内野健太郎です。私達国際交流委員会は World Students Bridge (通称：WSB) とも名乗っており、海外の学校から研修などで訪れた学生と交流会を開いたり、ハロウィンなどの海外の文化や風習を高専の学生に知ってもらうイベントを開催するなど、様々な活動を行っています。また、国際交流委員会はインターアクトクラブにも所属しています。

インターアクトクラブとは？

インターアクトクラブでは、12～18歳の中学・高校生が、地元でのボランティア活動や海外のインターアクト会員(通称「インターアクター」)との交流を通じて視野を広げ、国際感覚を養っています。ロータリークラブの支援を受けて設立されるインターアクトクラブでは、友だちと一緒に楽しみながらロータリーの「超我的奉仕」を学び、行動力を身につけます。

国際交流委員会は、海外の異文化交流を通して、日本にはない様々な文化に触れ合うことができるのが力です。高専への入学を考えている皆さん、ぜひ国際交流委員会に足を運んでみてください。



ロボット製作委員会

ロボット製作委員会委員長の知花龍樹です。私達ロボット製作委員会は、毎年NHK主催で行われる「高専ロボコン」に向けてロボットを製作している委員会です。学科を問わずいろいろな学生が役割を任されており多くの学生が活躍しています。

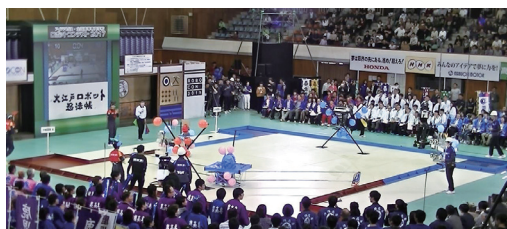


「高専ロボコンとは？」

正式名称は「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」といいます。全国の高等専門学校(高専)が各地区大会に参加し、そこで選ばれたチームが全国大会に進みます。1988年に始まって2017年の大会では30周年を迎えました。発想力と独創力を合言葉に毎年魅力的なロボットが生まれ、ハイレベルな熱い試合が繰り広げられています。

半年間の高専ロボコンのシーズンが終わった後には、他校との交流ロボコンを行ったり、各々が好きなロボットを作ったり、ロボット作りに情熱を注いでいます。

ロボット製作委員会では、学校生活を送りながら自分の技術力を磨くことができるという魅力があります。高専への入学を考えている皆さん、ロボット作りに興味があるという皆さん、私達と一緒にものづくりの楽しさを体験してみませんか？



Activity Report

キャリア活動を通じての学生の活躍



キャリア教育センター長
高良 秀彦

キャリア教育センターは、学生の皆さんのキャリア形成のための教育と進学や就職活動の支援を目的として、各学年に対応した教育や支援を行っています。自分自身を理解し、社会を知り、業界業種を知ったうえで、どのような道に進みたいのかをじっくり考えることを主な目的としています。そのために、企業・団体の方や卒業生などにご協力をいただきながら、講演会やワークショップを開催しています。また、「キャリア教育センター相談窓口」を設けて、学生の皆さんの疑問や相談に対応しています。今年度の活動状況（一部）を紹介します。

1年生は、新入生オリエンテーションでの講演で高専生としての心構えを学びました。また、「自分の将来のイメージを色で表現してみよう」というワークショップが開催され、与えられた真っ白な画用紙にパステルで自分の将来への思いを色に託しました。

2年生は、「キャリアデザインガイダンス」において、“なりたい自分になるためには”ということを変更して考える時間を持ちました。また、学科別に卒業生を招聘し、社会人への道のりへの体験を伝える場を設けました。

3年生は、各学科の専門性を意識したキャリア教育と就職活動を想定したエントリーシートの書き方など、より実践的な知識を講義やセミナー、講演会を通して習得しました。

4年生は、6月にはビジネスマナー講習、メイクアップセミナーなどを行いました。また、夏季休業期間のインターンシップにおいて、企業等で就業体験を行うことにより、学校で学んだ専門知識や技術がどのように活かされているかを実感すると共に、実社会に必要な素養・能力の必要性を自覚し、実社会の生きた知識を身につけました。

5年生および専攻科生は、企業による「業界研究会」「企業説明会」、および大学による「進学説明会」に参加しました。そこで得た情報をもとに、そしてこれまでの授業、課外活動、インターンシップ、およびキャリア教育センターのイベント等で経験し、学んだことを活かして自分の進路を決定しています。

このようにキャリア教育センターでは、様々な講演会やワークショップを提供し、また進路相談の場を提供することで、学生の皆さんのキャリア形成のための教育と進学や就職活動の支援を行っています。



学生の活躍

グローバル交流推進センターの活動紹介



グローバル
交流推進センター長
タンスリヤボン
スリヨン

沖縄高専グローバル交流推進センターは、国際社会に広く貢献できる人材の育成のため、沖縄高専の学生の海外派遣、外国の研究者・留学生の受け入れに関する事業を実施し、国際交流の連携を推進するために設立されました。本センターの、国際的に活躍することができる学生の育成を目指した取り組みの一環を幾つかご紹介します！

2017-2018 年度の活動

2017

- Apr. トビタテ！留学 JAPAN の報告会を開催し、3 名の派遣生の発表を行いました。
- Jun. タイの KMUTNB 大学、PIT 大学、SWU 大学から計 9 名の短期海外研修を受入れました。
- Jul. 名護市国際交流協会主催の第 11 回日本語弁論大会に本校の留学生が参加：本校から 3 名の留学生を出場し、その中で 2 位の賞を受賞しました。
- Jul. 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～に 1 名が合格しました。
- Aug. スロベニアの University of Maribor との学術交流協定を締結しました。
- Aug. 9 高専連携で台北科技大サマープログラムへ 9 名の学生を派遣しました。
- Aug. クラスの研修旅行で国立台北科学技術大学へ 40 名の学生を派遣しました。
- Sep. タイの KMUTNB 大学へ 8 名の学生を派遣しました。
- Otc. JASSO プログラムで、国立台北科学技術大学において選抜された 9 名の学生を招聘しました。
- Otc. 英語での会話を頑張るエリア「E-カタリバ」を校内にオープンしました。
- Otc. 本校の留学生を九州沖縄地区留学生交流研修会へ派遣しました。
- Otc. テマセク（シンガポール）から 2 名の短期海外研修を受入れました。
- Dec. さくらサイエンスプランの実施：国立台北科学技術大学から 10 名の学生を受入れました。

2018

- Mar. Biotechnology Camp 2018 にて、Nanyang Polytechnic（シンガポール）から約 30 名の学生が参加。…など
- Mar. 『2018 ドローンキャンプ in 沖縄高専』を開催します。本プログラムでは、タイの学生と本校学生が本プログラムに参加して国際交流をしながらドローンを題材とした技術交流を行います。



シンガポールのテマセク、台湾の台北科技大の研修生との交流



タイの KMUTNB 及び PIT 研修生との交流



タイの SWU 大学の研修生との交流



トビタテ！留学 JAPAN の報告会

WSB(World Students Bridge)の活動

グローバル交流推進センターは学生主体の国際交流委員会、通称ワサビと協同し、沖縄高専のグローバル活動を行っています。留学生との交流会やハロウィンイベントなど、様々なイベントを通して、日本にはない様々な文化に触れ合っています。



これからも皆さんの素敵な挑戦を応援していきます！

沖縄高専 HP 内グローバル交流センターサイト

<http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=73785&menuid=14651&funcid=1>



地域連携推進センター



地域連携推進センター長
武村 史朗

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

主な活動内容として、毎月定例の技術相談会の開催、知的財産セミナー、沖縄高専フォーラム等の開催、共同・受託研究、技術相談(随時)の受け入れを行っております。さらに地域の各種イベントへ出展し、本校の教育研究内容を発信しています。

また、地域交流推進の一環として、小中学生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業や小・中学校等での出前授業、公開講座等、科学やものづくりの楽しさを実際に体験してもらう活動を行っています。

連絡先: skrenkei@okinawa-ct.ac.jp



小中学生対象体験授業



沖縄高専フォーラム



夏休み体験教室

保健室より

看護師：高江洲、安里

早いもので平成29年度が終わります。卒業生、在学生ともに緊張しながら次年度の準備をしていることかと思えます。時々緊張をほぐすためにも背筋を伸ばし深呼吸をしてみましょう。深呼吸は意識して行いますが、普段は意識することなく呼吸をします。まして鼻でしているのか、口でしているかなんて考えもしないと思います。

本来、人は鼻から呼吸(鼻呼吸)を行うようにできていて、食事をしてもし息苦しくないのはこのためです。鼻呼吸は空気を加温、加湿し、細菌やゴミなどを取り除く役割をしています。一方、口からの呼吸(口呼吸)は、鼻のような役割はもっていません。その結果、口腔内や咽頭が乾燥し、扁桃への感染・炎症なども起こしやすく、その他にも様々な症状を引き起こす原因と考えられています。口がいつも開いている、鼻が詰まりやすい、口が乾きやすいなどがある人は口呼吸の可能性もあるかもしれません。

口呼吸を鼻呼吸に改善していく方法として、「あいうべ体操」を福岡市・みらいクリニックの今井一彰医師は考案しています。声を出さなくても良いので「あー」と口を大きく開く、「いー」と口を大きく横に広げる、「うー」と口を強く前に突き出す、「べー」と舌を顎につけるイメージで舌を出す。1セット30回、最初は無理をせず、回数を分けて行います。体調を整える一つの手段として試してください。

在学生の平成30年度学生定期健康診断が、4月5日、6日にあります。必ず受けてください。学業を続けていく中で自分の健康状態を確認することは大事です。卒業生の皆様も身体を大事にし、目標に向かって進んでください。



就職・進学・志願状況

【平成30年3月卒業予定者の進路状況】

平成30年3月2日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
進学状況	卒業予定者数※2	32	30	38	32	132
	進学希望者数	13	10	9	15	47
	合格者数	12	9	9	13	43
	うち専攻科合格者数	5	5	5	8	23
	うち3年次編入等合格者数	7	4	4	5	20
	うち専門学校・その他合格者数	0	0	0	0	0
	進学決定率 (進学者数/進学希望者数)	92.3%	90.0%	100.0%	86.7%	91.5%
進学先※1	長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学(4) 琉球大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(5)	豊橋技術科学大学(2) 大阪大学 久留米大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(5)	長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学 千葉大学 電気通信大学 沖縄工業高等専門学校専攻科(5)	長岡技術科学大学(2) 九州工業大学(3) 沖縄工業高等専門学校専攻科(8)		
内定状況	就職希望者数	18	19	28	17	82
	内定者数	17	18	28	17	80
	内定率 (内定者数/就職希望者数)	94.4%	94.7%	100.0%	100.0%	97.6%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	拓南製鉄株式会社 極東建設株式会社	クオリサイトテクノロジーズ株式会社	株式会社沖縄富士通システムエンジニアリング 株式会社レキサス	株式会社琉球ネットワークサービス 沖縄明治乳業株式会社	
		計2名 内定者に占める割合 12%	計1名 内定者に占める割合 6%	計2名 内定者に占める割合 7%	計2名 内定者に占める割合 12%	計7名 内定者に占める割合 9%
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	株式会社ケセラセラ ジョンソンコントロールズ株式会社 株式会社ベアック 第一三共プロファーマ株式会社 新日鐵住金株式会社 株式会社西島製作所 三菱電機ビルテクノサービス株式会社(2) ムラテックCCS株式会社 SUBARUテクノ株式会社 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 旭化成株式会社 日本たばこ産業株式会社九州工場 JXエンジニアリング株式会社 出光興産株式会社	富士電機株式会社 日本アイビーエム・ソリューション・サービス株式会社 株式会社ヒップ 富士通株式会社 富士通エフサスシステムズ株式会社(2) キャノンシステムアンドサポート株式会社 株式会社NTTネオメイト SCSKニアショアシステムズ株式会社 株式会社NTTフィールドテクノ ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 東海旅客鉄道株式会社(2) 株式会社NHKメディアテクノロジー ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 ANAスカイビルサービス株式会社 株式会社モバイルファクトリー	株式会社スリーエスシステムアンドサービス 株式会社ソフトウェアサイエンス NECフィールディング株式会社(2) 株式会社ネオジャパン 株式会社ネオテック 株式会社ヴィッツ(2) 株式会社日立ハイシステム21(3) 株式会社トヨタコミュニケーションシステム(2) 株式会社NS・コンピュータサービス(4) 株式会社ハイマックス エキサイト株式会社 ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社 矢崎総業株式会社 株式会社エージェック サントリースピリッツ株式会社 キリンビバレッジ株式会社 株式会社クリエイト・レストランツ・ホールディングス 第一三共プロファーマ株式会社 花王株式会社(2) 三洋化成工業株式会社 沢井製薬株式会社 サントリープロダクツ株式会社 株式会社資生堂 ユニチカ株式会社 株式会社開邦工業 株式会社ネオジャパン		
		計15名 内定者に占める割合 88%	計17名 内定者に占める割合 94%	計26名 内定者に占める割合 93%	計15名 内定者に占める割合 88%	計72名 内定者に占める割合 91%

※1. 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

※2. 機械システム工学科、情報通信システム工学科及びメディア情報工学科に就職・進学を希望しない学生が各1名います。

【平成30年3月修了予定者と進路状況】

平成30年3月2日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
進学状況	修了予定者数	8	6	1	7	22
	進学希望者数	4	3	0	2	9
	合格者数	4	3	0	2	9
	うち大学院等進学予定者	4	3	0	0	7
	進学決定率 (合格者数/進学希望者数)	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%
	進学先※	長岡技術科学大学大学院 大阪大学大学院 琉球大学大学院（2）	豊橋技術科学大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学（2）		愛媛大学大学院 東京大学大学院	
内定状況	就職希望者数	4	3	1	5	13
	内定者数	3	3	1	5	12
	内定率 (内定者数/就職希望者数)	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%	92.3%
	就職先企業名 (県内) 県内に本社のある企業	日本トランスオーシャン航空株式会社	日本トランスオーシャン航空株式会社		沖縄電力株式会社 沖縄大学	
		計 1 名 内定者に占める割合 33%	計 1 名 内定者に占める割合 33%	計 0 名 内定者に占める割合 0%	計 2 名 内定者に占める割合 40%	計 4 名 内定者に占める割合 33%
	就職先企業名 (県外) 県外に本社がある企業	武田テバファーマ株式会社 スズキ株式会社	三菱電機ビルテクノサービス株式会社 富士通エフサス株式会社	株式会社アルク	日本特殊研砥株式会社 サントリースピリッツ株式会社 旭化成株式会社	
		計 2 名 内定者に占める割合 67%	計 2 名 内定者に占める割合 67%	計 1 名 内定者に占める割合 100%	計 3 名 内定者に占める割合 60%	計 8 名 内定者に占める割合 67%

※ 同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を（ ）内に示しています。

平成30年度学生募集結果一覧

推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	11	3	11	3
情報通信システム工学科	7	4	7	4
メディア情報工学科	10	3	10	3
生物資源工学科	14	13	9	8
男女別計	42	23	37	18
合 計	65		55	

専門実習による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	20	3	6	1
合 計	23		7	

学力による選抜

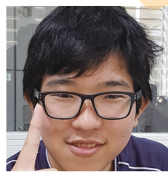
	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	26	2	24	2
情報通信システム工学科	24	0	26	5
メディア情報工学科	29	7	19	2
生物資源工学科	16	17	12	12
男女別計	95	26	81	21
合 計	121		102	

帰国子女特別選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
全学科	2	0	1	0

機械システム工学科

4学年
大城 光毅



私は、愛知県豊田市にある小島プレス工業株式会社のインターンシップに参加しました。

小島プレス工業はトヨタ自動車の一次受けとして実績を残している企業であり、電気電子部品や、車内のコンソールボックスなどの設計・製造を行っている企業です。現在世界シェア一位のトヨタ自動車を裏から支える縁の下の力持ちといえます。

インターンには2週間参加し、第二技術部の開発課にお世話になりました。インターン生は20名ほどいましたが、ほとんど高専生でしたが、大学生や大学院生もいました。

今回、自分がインターンに参加するにあたって、設計から開発、生産に至るまでの企業努力を見学し、自分の将来に役立てることを目標として参加しました。インターンでは、コンデンサの新製品開発の補助ということで、故障解析や、事故調査をまず行いました。製品を新しく生み出す際には、予想の範囲を超えた結果が出てしまうことは稀ではありません。その結果を基にまた同じことが起きないように解析や調査を行うことが、新製品開発にとって一番重要な部分であることをこの解析・調査を通して感じました。その結果を基に次の試作品の条件を決めるプレゼンに参加させていただき、社員さんの開発における視点を知ることができたのはとても良かった点です。その試作品を製造する際にもお手伝いをさせていただき、とても有意義な時間でした。

インターンを通して専門の範囲を除くと「人」として大きく成長したと感じました。実際に学校では体験できない企業の業務などを通して、自分が実際に就職した際を想像することができ、今自分に何が足りないかを分かってもらいました。

インターンの目的は人によってそれぞれ違ってくると思います。自分のようになにかを学びたいと思い参加する人、インターン先への就職を見つめ参加する人、単位取得のためにしぶしぶ選ぶ人。自分の心のもちようでインターンという一つの大きな学生としてのイベントを将来に活かすかそうでないかが別れるかと思っています。このインターンシップを自分にとって価値のあるものにできるようにこれからインターンに参加する学生は少し考えてみてほしいなと思います。

堅苦しく話してしまいましたがインターンはとても楽しいものでした。学校で学べないこと、先輩社員の面白い話、他のインターン生との絡み等、いい経験をたくさんすることができたので、考えつつもしっかりと楽しんでください！！

機械システム工学科

4学年
松澤 拓末



私は、材料や表面処理に非常に興味があり、今回のインターンシップでは大阪府にあるカンメタエンジニアリング株式会社に1週間お世話になりました。

皆様は、「カンメタエンジニアリング」という名前を聞いても全く想像がつかないと思います。私も調べるまで何をしている会社なのかわかりませんでした。調べてみて私の興味のある表面処理、特に授業でも習ったことのある溶射やショットピーニングをしている会社だとわかり応募しました。

インターンシップは私とあと一人、沖縄高専機械科の同級生の2人で実習していたので、午前の講義では様々な種類の溶射やショットピーニングの原理や効果などを聞き、午後は講義で学んだことを実習で確認するというモノでした。より良い溶射を行うために創業時からの施工の情報をすべて残し、青山学院大学の竹本先生との研究を自社で行い、さらなる強度や耐腐食性の向上を目指しているということで研究所の見学などもさせていただきました。一番驚いたのは、プラズマコーティングという聞いたことのない技術で表面をコーティングするだけでどんな材質でも非粘着性になり、ガムテープなどが全くくっつかなくなるというモノで、この技術はアメリカのモノで日本ではカンメタエンジニアリングでしかできないということでした。沖縄高専にいただけではできない経験がたくさんで、現場で初めて気づくことが多くありました。

カンメタエンジニアリングはいわゆる日本の中小企業と呼ばれる立ち位置になり、社長の植野様は、「溶射などとても狭い分野を扱うので私たちの評価がこの分野の評価に直結するので責任を持っている。」とおっしゃっていて、中小企業が今の社会で残っていくには会社の強みが必要であり、カンメタの場合「過去の施工の情報による安心した精度」「竹本先生との研究」「日本で唯一の技術」などがあります。

今回のインターンシップを通じて、私はとても楽しみ、表面処理にさらに興味がわきました。皆さんに言いたいことは、自分の好きなことをしている会社を選ぶべき、また可能なら中小企業に行ってほしいということです。大手の会社を否定するわけではありませんが、私は沖縄高専から2人という少ない人数で質問をたくさんすることができ、実習も多くできました。この経験は今後の人生に役立ちます。行きたい企業に行き、インターンシップで楽しく学んでください。

情報通信システム工学科

4学年
岸本 流栄



私は、航空整備の仕事に興味があったため、8月下旬の5日間 eTEAM ANA という航空整備会社のインターンシップに参加しました。

eTEAM ANA は、ANA グループの整備部門に携わる7社の総称であり航空機の整備を行っている会社です。

本インターンシップでは、実際に整備士が働いている現場の見学や整備作業実習などをさせていただきました。見学では、空港や航空機が収容されている格納庫に行きました。そこで実際に整備士によって整備されている航空機を間近で見ることができました。他にも、航空機に取り付けられているエンジンや気象レーダーなどの部品類を点検、修理している現場の見学も行いました。航空機整備にも色々なカテゴリーがあり、その一つ一つの作業を専門の知識を持った整備士が行うことで、安全でより良い品質の航空機を作っていることを学びました。整備作業実習では、新人の整備士が普段訓練で行っている整備作業の体験をしました。細かな作業から二人以上で行う作業などがあり、いずれも一つのミスも絶対に許されないため、それらを防ぎ安全に作業を行うために作業の開始と終了時には必ず工具チェックを行い、また作業中はお互いに確認し合うなど常に声掛けが必要でありコミュニケーションの大切さや一つ一つの作業に対する責任の重さを強く感じました。見学や整備作業など普段ではなかなかできないことをさせていただき大変貴重な経験となりました。

整備士として働いている先輩社員の話を聞く機会もあり、普段の生活や整備士の職業を選んだきっかけなど様々な話を聞くことができました。また、他のインターンシップ参加者との交流もでき参加者全員が他高専の学生で、実習先までの通勤や食事などを一緒にすることで交流が深まり仲良くなることができました。これもインターンシップでの良い思い出となりました。

今回のインターンシップで、航空機が整備されるまでの流れや会社の雰囲気、整備士の人柄など多くのことを知りました。整備士の仕事は夜勤などもあり大変だと思うが整備士の方々は皆この仕事に誇りを持っており、非常にやりがいのある仕事だと感じました。また、自分の感じたことを自分の言葉で伝えることが社会でも大切だということも別に学べ、自分の意見を大事にしていこうと思いました。今回のインターンシップで学んだことを今後の進路選択に活用したいと思っています。

情報通信システム工学科

4学年
瑞慶山 秀斗



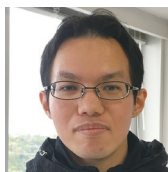
私は、この夏 NTT フィールドテクノとメタウォーター株式会社の2つの会社のインターンシップに参加しました。

NTT フィールドテクノでは、NTT 施設の見学や設備の保守、実際の現場での業務、企画・開発業務などの体験をさせて頂きました。特に印象に残っているのは、企画開発の業務体験です。「NTTの技術を使い新たなサービスを作る」という課題を4人1グループで話し合い発表まで行うのですが、なかなかアイデアが思い浮かばずに苦労しました。しかし、グループメンバーの助けもあり無事発表まで終えることが出来ました。私は、NTT グループの技術はいつか知っていたのですが、社会問題にあまり目を向けていなかったため、知っている技術がどのような社会問題に使えるかわかりませんでした。このため、インターンシップを終えてから、世の中でのなにが起こっていて、どのようなことが問題なのか知るため積極的に新聞やニュースなどを見ています。

メタウォーター株式会社では、上下プラントの概要説明や設計業務体験、社内試験業務、現地見学などを体験させて頂き、水が各家庭まで届くプロセスや上下プラントの設備などを学ぶことができました。また、担当の方が、ボーリング大会なども開いてくださり他高専から参加したインターン生とも仲良くなることができました。さらに、社員さんとの懇談会があり楽しくお話しすることもできました。懇談会ではインターンシップ中に聞きにくかった学生時代のことや会社の福利厚生についても質問することもできました。メタウォーターのインターンを通して水処理分野についての仕事内容なども知ることができ、また懇談会などのおかげで社内雰囲気なども感じることもでき非常にためになるインターンでした。

会社で働くことを不安に感じていたのですが今では前向きな気持ちになっています。今回のインターンシップを通して、自分の将来を考えるいい機会になりこの経験を就職した後も活かしていきたいと思っています。また、これからインターンシップに参加する方々は業界研究会や企業説明会などに参加して業界や企業の情報を集めることをオススメします。エントリーシートの添削やインターンシップ情報を提供して下さった先生方やインターンシップを受け入れてくれた企業の方に感謝しています。

メディア情報工学科

4学年
大城 聖也

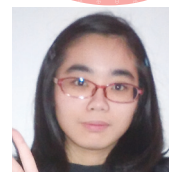
私は平成 29 年 8 月 21 日から 8 月 25 日までの 5 日間、東京にある株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイーのインターンシップに参加しました。この企業は通信網の設計、構築、維持などを大きな柱とする会社です。また、電気通信及び情報通信に関する技術の支援や人材育成にも力をいれています。

インターンシップは 5 日間ありましたが、すべて異なる内容でした。初日はオリエンテーションと、5 つの課題に取り組む 1 グループ 5 人のグループワークを行いました。グループメンバーは既に決められており、初対面の相手と協力しなければならなかったのでもく連携がとれるか不安でした。ですが、それぞれの役割を決め、課題をこなしていくと各自が発言する回数も増え、スムーズに課題に取り組むことが出来ました。2 日目、3 日目は基本的には午前は講義、午後は実習という形で進めていきました。今まで知らなかった NGN という次世代のネットワークについて知ることができたり、NTT の AC 系業務やオンサイトを体験することができました。4 日目はとう道と呼ばれる東京の地下に存在する通信ケーブルが通るトンネルを見学しました。ケーブルの古さや数から NTT の長い歴史と会社の規模が感じ取れました。5 日目はさいたま新都心ビルに移動し、オペレーションルームなどの施設見学、若手社員との座談会、インターンシップの報告発表会を行いました。座談会では若手社員の生の声を聴くことができ、学生の中に何をすべきか、学生の頃は何をしていたか「仕事のやりがい」などについて知ることができたので大変参考になりました。

今回のインターンシップは、「業務を手伝う」というよりは「講義を受講する」「研修旅行の延長」といった印象を受けました。演習では高専で習ったことが活かされることが多くあり、高専の授業内容の重要性を再認識することが出来ました。しかし、講義や演習どちらでも分からない語句が多々出てきており、自身の勉強不足を痛感しました。また、グループは日付が変わるたびに異なるメンバーに変更されて演習が行われるため、毎日全く話したことのない人たちと連携しなければならないという状況で、社会でのコミュニケーション能力の必要性をひしひしと感じました。

最後に、これからインターンシップを経験される皆さんへ。インターンシップはホームページやパンフレットだけでは知ることのできない会社の雰囲気、そこで働く社員それぞれの考えなどを知ることができる大変貴重な機会です。進路へ大きく影響を及ぼすイベントだと思いますので、就職組だけでなく進学組もしっかり考えてインターンシップに臨むことをおすすめします。

メディア情報工学科

4学年
仲間 李子

私は、9 月 11 日から 9 月 15 日の 5 日間、沖縄県内の株式会社サムズインターナショナルさんのインターンシップに参加しました。この企業は、幅広い業務の企画・技術・システム開発が主な仕事です。

インターンシップでは、インターンシップ実習生 3 人で、システム開発の流れを知るために、中古車販売店のシステムづくりの課題を行いました。その開発の工程で、特に印象に残ったのは、1 番最初の「要件定義」というものでした。要件定義とは、ユーザーがそのシステムで何をしたいのか、なぜそのシステムが必要なのか、システムの目的などをわかりやすくまとめることです。ユーザーの求める要求をきちんと正しく理解して、機能や性能といった技術的な要件にまとめていく作業で、特に重要なのがユーザーと私たち開発側の認識のすり合わせです。ここで認識に齟齬が出ると、失敗することが多いそうです。私は、やはりどんな仕事でも、コミュニケーション能力は大切なんだと改めて知りました。また、自分やグループの 2 人と協力して何か 1 つのものをつくり、それが形になって、ユーザーの方が使うと思うと、とてもやりがいを感じました。

今回のインターンシップでは、当日だけでなく、その準備もとても大変でした。私の実家は北部ですが、インターン先企業は中部にあったので 1 人暮らしの兄のアパートから通いました。そこから企業までのバスの経路、金額などを調べたり、インターンシップ前に実際に企業まで行ってみたいもしました。また、化粧なども普段からしないので、練習もしました。

これからインターンシップに参加する皆さんへ。インターンシップは、自分の将来に関わる重要なことです。企業の情報収集を欠かさず行い、自分がどうしたいのかを考え、真剣にインターンシップに参加してください。

生物資源工学科

4学年
伊志嶺 桃佳

私は夏休み期間の 5 日間、名古屋大学の大学院医学系研究科にインターンシップでお世話になりました。

初めて見た大学院の様子は、講義室などもなく、ほとんどの時間を実験とデータ処理をして過ごしていて驚きました。沖縄高専卒の 1 期生の先輩が所属している研究室にお邪魔し、私たちでもできそうな実験をさせてもらったり、実際に研究している先輩のお手伝いをしたりしました。

主に、マウスの遺伝子型を決定するために電気泳動をしたり、がん細胞のみ生育する培地を作成し、その中に細胞を添加して、その細胞にがんの性質があるかを調べたりしました。今までに創造研究で経験したことがある実験もありましたが、何度も経験している先輩方の細かい手順の説明や、失敗しそうな部分とその対処法を予め教えてくれたりして、とても助になりました。

中でも印象的だったのは、神経芽腫という小児がんにかかったマウスを解剖し、その腫瘍がマウスの小さな体のほとんどを占めており、ガンに蝕まれている姿を初めて目にして、衝撃を受けたことです。

また、インターン期間中は、勉強ばかりではなく、お世話になった先生や先輩方と一緒に食事させていただく機会もあり、とても楽しい時間を過ごすこともできました。

今回のインターンシップを通じて、学ぶことの楽しさを再認識し、もっと多くのことを学びたいと感じました。また、がんを患った生体を実際に目にし、その怖さを実感し、がんて苦しむ人を減らしたいと思い、自分がどのようなことを学んでいきたいのかも知ることができたので、とてもいい経験になりました。

生物資源工学科

4学年
平良 幸樹

私は 9 月 4 日から 9 月 14 日までの 10 日間、花王株式会社の和歌山工場にて行われたインターンシップに参加しました。全国から 100 名の高専生を募集し、和歌山工場と同じ敷地内にある和歌山研究所で、40 個ほどのプログラムから事前に希望したプログラムに割り当てられる形で、10 日間各プログラムのテーマに沿った研修でした。

私は研究所でのプログラムで、洗剤原料の合成条件の検討、品質・物性・性能評価をテーマに研修を行いました。

研修では実験で高圧ガス設備等を使用するため、はじめに安全指導にて、いかなる場合でも成果より安全が第一ということを知り、研修中は気を抜かず常に安全を意識して実験を行いました。また、指導担当の方と一緒に昼食をとっているときには、大規模な設備がある工場などにおいて、製品を作る際の時間やコスト、人件費などの効率を上げることは直接利益につながるため非常に重要であり、それを実現するためには基礎研究が大切で、基礎がしっかりしていないと応用し進んでいくことができない。と教えていただき、勉強や普段の生活にも通じることだと感じました。

このインターンシップでは、安全第一の考えや基礎研究の大切さをはじめ、実践的な科学の面白さを学ぶことができました。講義で学んだ化学反応を実際に機械を使い試してみることで、座学で得た知識以上の理解を深めることができたと思います。また、就職後のキャリア形成について、私の指導担当の方からお話を伺い、沖縄高専を卒業して花王株式会社に就職した先輩からもお話を伺うことで、今まで想像していたものとは違うことがわかり、就職に対する考えにとても良い刺激になりました。

研修中に寄宿していた社員寮では、他県の高専生とも交流ができたインターンシップが終わった今でも連絡を取る友達もできました。将来のキャリア形成を考えるうえで重要で、全国から集まる同世代の人と知り合う機会もあるインターンシップですので、ただ参加するだけではなく、1 つでもよいので目的を持って参加することで実りのあるインターンシップになるとと思います。

平成30年度(前期)行事予定表

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1 日	在学生開寮	1 火		1 金		1 日		1 水	予備日	1 土	
2 月		2 水		2 土		2 月		2 木	前期期末試験	2 日	
3 火	入学式 新入生入寮	3 木	憲法記念日 仮：体育祭(登校日)	3 日		3 火		3 金		3 月	(寮)学生寮修繕期間
4 水	オリエンテーション 入寮式・開寮式・対面式	4 金	みどりの日	4 月	中間試験実施期間	4 水		4 土		4 火	
5 木	健康診断、課題確認試験(数学・本科1年) 教科書販売、ノートPC設定会(本科1年) 図書館利用講習会(本科2年予定) 航空技術者プログラム履修者説明会	5 土	こどもの日	5 火		5 木		5 日		5 水	
6 金	健康診断 教科書販売、ノートPC設定会 (本科1年)	6 日		6 水		6 金	仮：九州沖縄地区高専体育大会 (22日まで)	6 月	臨時休講日 (体育祭の振替休日)	6 木	
7 土		7 月		7 木		7 土	仮：九州沖縄地区高専弓道大会 (寮)学生寮第3回特例大清掃	7 火		7 金	
8 日		8 火		8 金		8 日		8 水		8 土	
9 月	全学年授業開始 交通安全講習会(本科2年以下) 全校集会	9 水	性に関する講演会(本科1年)(仮) キャリア講演会(本科2年)	9 土	専攻科学力選抜	9 月	TOEIC・IPテスト (本科5年、航空技術者 プログラム履修希望者)	9 木	(寮)学生寮居室点検・清掃 試験返却日	9 日	仮：合宿受入予定(寮)
10 火	開校記念日(授業日) 校長講話(本科1年)予定	10 木		10 日		10 火		10 金	前期末全校集会 (寮)学生寮居室点検・清掃	10 月	
11 水	交通安全講習会 (本科3年以上・専攻科含む) カウンセラー講話(本科1年)	11 金		11 月	沖縄高専交通安全祈願の日 中間試験再試験実施期間	11 水	仮：サイバー犯罪防止に関する 講演会(本科1年) キャリア講演会(本科3年)	11 土	山の日 開寮式 (寮)開寮前大清掃	11 火	
12 木		12 土	専攻科推薦選抜	12 火		12 木		12 日	閉寮	12 水	
13 金		13 日		13 水	Hyper-QU(本科1～3年) キャリアセミナー(本科4年)	13 金	臨時休講日 フルフライトシミュレーターツアー(夏季)	13 月	(寮)学生寮点検期間 夏季休講	13 木	
14 土		14 月		14 木		14 土	オープンキャンパス(仮：広報委員会) (寮)寮見学ツアー(予定)	14 火		14 金	
15 日		15 火		15 金		15 日		15 水		15 土	敬老の日
16 月	(寮)寮生自衛消防隊説明会	16 水	(寮)月例大清掃(5月)	16 土	(寮)学生寮第2回特例大清掃	16 月	海の日	16 木		16 日	
17 火	カウンセラー講話(本科2年)	17 木	中間試験等対策実践講座(本科1年)	17 日	学校説明会(那覇：広報委員会)	17 火		17 金		17 月	
18 水	(学生寮)月例大清掃(4月)	18 金	中間試験等対策実践講座(本科1年)	18 月		18 水	仮：薬物に関する講演会(本科1年) (寮)月例大清掃(7月)	18 土	サマースクール 全国高専体育大会(～9/2まで)(予定) (寮)寮見学ツアー	18 火	
19 木		19 土	(寮)学生寮第1回特例大清掃	19 火		19 木		19 日		19 水	
20 金		20 日		20 水	(寮)月例大清掃(6月) キャリアセミナー(本科4年)	20 金		20 月	全国高専体育大会 (ハンド、主幹校業務)(予定) (寮)学生寮修繕期間	20 木	
21 土		21 月	校長講話(本科5年・専攻科生)予定	21 木	フルフライトシミュレーターツアー (夏季)選抜試験	21 土	オープンキャンパス(仮：広報委員会) (寮)寮見学ツアー(予定)	21 火		21 金	
22 日		22 火		22 金		22 日		22 水		22 土	
23 月	(寮)学生寮前期避難訓練	23 水	こころと体の健康調査(全学生)	23 土	慰霊の日(休講日)	23 月	公開授業週間	23 木	旧盆	23 日	秋分の日 開寮
24 火		24 木	(寮)第1回寮生総会	24 日		24 火		24 金		24 月	振替休日 開寮式
25 水		25 金	沖縄県高校総体	25 月	(寮)寮居室見学会(予定) 学級懇談会・保護者面談	25 水	性に関する講演会 (本科2年)(仮)	25 土		25 火	後学期開始
26 木		26 土		26 火		26 木		26 日		26 水	
27 金		27 日		27 水		27 金		27 月	(寮)学生寮修繕期間	27 木	
28 土		28 月		28 木	キャリア教育 センター長講話 (2年)(仮)	28 土		28 火		28 金	
29 日	昭和の日	29 火	木曜日の授業	29 金		29 日		29 水		29 土	進学相談会(広報委員会) (寮)寮見学ツアー
30 月	振替休日	30 水	金曜日の授業	30 土		30 月	中学校教員等対象説明会 (本校：広報委員会)	30 木		30 日	
		31 木	中間試験(複数同時実施科目)			31 火	金曜日の授業	31 金			
備考	産学連携協力会総会 (寮)帰寮予定日：4月3日(火)20時 もしくは4月4日(水)16時 部活動紹介(学生会主催)	備考	第1回定期学生会議(仮) 地域清掃(学生会主催)	備考	後援会総会 交通安全旬間(20日まで)(学生会主催) 校内美化清掃(学生会主催) 地域清掃(学生会主催)	備考	第2回定期学生会議(仮)	備考	校内美化清掃(学生会主催)	備考	沖縄県大学図書館協議会 総会及び講演会

※この行事予定は3月時点のものであり、変更になることもあります。

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事